

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792600033		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム杵が森		
所在地	福島県河沼郡会津坂下町字稲荷塚127		
自己評価作成日	平成28年12月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成29年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が不安を感じることなく、安心して日々を過ごせるように、積極的に勉強会に参加し、職員一人ひとりがスキルアップを図っています。本人や家族の状況等に柔軟な対応を行い、支援に取り組み、笑顔で元気に過ごして頂けるように関わりを持ち、質の高いサービスを提供できるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所グループの保有するワゴン車を使い利用者と職員の全員で参加をすることができるため、花見など四季折々の観光名所への外出や夕食のドライブを楽しんでいただき、利用者の日々の生活を支えながら居心地の良さに努めている。
防災の観点から、運営推進会議のメンバーに現職消防団員がいるので、地元消防団との密接な関係を構築して地域密着型サービスの実践につなげるよう図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の気持ちを尊重し、笑顔で元気に過ごしていただけるよう関わりを深める」という理念を職員全員で共有し、実践できるよう努めている。	毎月の職員会議で理念の確認をはかるとともに、必要がある時には見直しをして、管理者や職員の共有につなげている。理念の内容を話し合いの中で作り変えた事もあり、現状にあった理念を意識して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加をして利用者様が笑顔で元気に暮らせるように、また、地域の方やご家族様に施設の行事に参加して頂けるよう声掛けし、関係性が継続できるよう努めている。	地域の歳神や依引き、初市や初詣、夏祭りにも参加している。近所の公園への散歩時には、挨拶をして近隣住民との交流をしている。冬には事業所近辺の除雪作業にも町内会の協力を頂いたりして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の委員として、自治会長、民生委員、家族代表や地域包括支援センターの方に参加して頂き、ホームの利用者様の状況や認知症について現状をお話して、認知症についての理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の現状を報告し、問題点や困っている事について意見や助言を頂きサービスの向上に努めている。	空床対応のため運営推進会議のメンバーの協力で包括センターも含め、入居者の紹介や助言をいただいたりしている。会議で取り上げられた検討事項には経過を報告し、意見をもらうようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情をお話するとともに、分からない事がある時は相談に伺い意見や助言を頂いている。	実地指導だけでなくケアプランの作成も相談、意見を貰いながら協力関係を構築している。認知症サポーター養成講座の開設についても助言を貰い具体化を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員による見守りと利用者様が不安となる原因について職員全体で考え対応することで、拘束が必要な状況にならないよう努めている。自宅に帰りたいと訴えがある方に対しては、寄り添い自宅まで同行等行い、玄関の施錠をしないようにしている。	グループホーム協議会の身体拘束をしないケアの講習会に参加した場合には、持ち帰って言葉による拘束なども含めて全員で学習して理解に努めている。玄関施錠は、夜間には防犯上施錠をするが日中は鍵をかけずに抑圧感のない暮らしに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加するなど、施設内で虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。又職員一人一人の精神面も考え、お互いに声を掛け合いケアをしていくことで虐待へとつながらないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は自立支援事業や成年後見制度を利用されている方はいらっしゃらないが、研修会等で勉強する機会を持ち職員の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に十分説明し理解や納得して頂いた上で契約を結んでいる。契約後も話しやすい環境を作り、疑問点や不安等に対して、常に相談に応じれるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ごとに担当の職員があり、利用者様やご家族様がいつでも要望や意見を出しやすいようにしている。又、家族が面会に来られた時は、要望等がないか話を伺うよう努めている。	家族の要望で利用者の便秘薬の使用量等の調整相談があり、居室担当や管理者、医師の意見を含めて検討して対応を行っている。便秘に関する改善の経過や結果を確認しながら、利用者や家族の意見の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回及び利用者様の状態に変化が出た時に職員会議を開き、職員の意見や提案を聞き運営に反映している。又、法人理事長や施設長等も月に何度か訪問し、施設の状態確認や相談等を聞く機会を作っている。	脱衣所の床材が竹素材で割れた為に、けがをする危険があるということで、職員の提案から交換対処に工夫している。職員の声を、管理者も含めて理事長や施設長に提案して反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限り現場に出向き、利用者様や職員とのコミュニケーションに努めている。又、常に職場環境に目を向け現場の状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内の内部研修や外部研修にも参加し技術の向上に努めている。又、必要に応じてホームで勉強会を開き職員全員で理解できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人事交流や内部研修等を通じて職員同士の交流や情報交換を行いサービスの向上への取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様の自宅を訪問し、事前にご本人、ご家族様に管理者や介護支援専門員から生活の状況等について伺い、要望や不安な点についても確認したことをサービスに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の際に困っている事や不安な点について要望を聞くようにしている。又、入所後もご家族様と定期的にお話する機会をつくり、その都度困っている事について相談できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの相談時にご本人様とご家族様の状況、希望等を勘案して入所時のニーズを見極め、適切なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活において、出来る事はご利用者様に伺いながら協力して頂けるよう努めている。又、利用者様の状態等を見守りながら支援している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日頃の様子等についてご家族様に定期的に文章や電話、来訪時に報告している。問題等がある場合はご家族の意見を聞き相談しながらケアを行うよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通っているかかりつけ医へ引き続き受診できるように支援し、馴染みの関係が継続できるよう配慮している。又、昔からお付き合いがある馴染みの方とお話する機会を作り関係が途切れないよう努めている。	なじみのパーマ屋さんや近所のそば屋さんにも協力をいただき利用者に声掛けをお願いして、これまで培ってきた馴染みの人間関係の継続に努めている。彼岸などには家族対応で墓参りも実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性、個人の性格、認知症の状態を考慮し、食事等の席の場所など工夫している。ご利用者同士トラブルになりそうな時は、職員が間に入り良好な関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院によって退所になったご利用者様について、ご家族様に病状等について確認し、その後も相談や支援が出来ることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や定期的にご本人様から希望や意向の把握に努めている。又、困難な場合は、ご家族様とも相談し、可能な限り望む生活の援助を行っている。	入居時のみでなく随時思いや意向の把握に努めている。日々の動きが少ないので足が弱めと言う意見があり、レクリエーション体操を取り入れたりして対応している。散歩や習字の会に参加などの場合も笑顔で楽しんでいるか確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や馴染みの暮らし方等の把握を行った上でサービスを提供している。入所後もご家族様より以前の様子等を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時に日頃の過ごし方や心身の状態等を確認し、職員同士で共有し、ご利用者様の気持ちに添ったケアを提供出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様に今の現状や今後の生活の希望等を伺い、職員間でも状態の把握や日頃の様子等について話し合いプランに反映させている。	職員会議だけでなく家族、本人、関係者をふくめて変化に応じて臨機応変に見直し、現状に即した計画を作成している。職員全員での意見交換やモニタリングでの結果を計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日々気付いた事を介護記録やチェック表、申し送りノートなどに記録し、その活用により情報を共有している。記録された内容はカンファレンスを行いケアの改善や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の心身の状況を常に把握し、変化がみられた時はその都度話し合いながら柔軟にサービスの提供ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅に帰りたいと願望のあるご利用者様には、自宅まで一緒に行き、近所の方とお話しをしてもらうことで、安心していただいている。又、地域の体操や習字の会等に参加出来る様ご家族様等と協力し継続して利用して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決定はご利用者様とご家族様に相談しながら行っている。受診に関してもお互いに連絡を取りながらご家族様と情報を共有している。	利用者の多くは家族対応で受診しているが、職員が代行している方もいる。総合病院は職員が診察順番の申し込みをして待ち時間を短くするなど利用者の負担を軽減できるよう努め、受診内容は本人や家族と職員が共有するように情報交換をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師はいないが常に異常の発見に努め、状態の変化等あれば速やかに協力病院に相談し、指示を仰いだり受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い出来るだけ早期に退院できるよう病院関係者へ相談している。又、病状の把握をし、入院が長期になる場合は家族とも話し合い、退院後の方向性についてもご家族様も交えて話し合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期についてご家族様に契約時に説明し、入所後も状態に合わせて話し合いをしている。その中で事業所として出来ることや今後の方向性についても理解して頂きながらケアに取り組んでいる。	重度化の場合、家族の希望や医師の判断により柔軟に対応して医療連携の構築に取り組んでいる。利用者や家族には、入居の時に終末期に事業所でできる事を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時にすぐ救急隊に渡せるようにご利用者様ごとに個人情報をもとめた緊急時連絡票を作成している。又、事故発生時のマニュアルは目につくところに掲示し、事故等発生時に備えた、救命講習など法人内で研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い避難できる方法を身につけている。又、緊急連絡網も目に付くところに掲示しており、全職員が把握している。	夜間想定避難訓練を実施して近所の中学校や公園を避難場所として確認している。災害時の備蓄として食料や水を確保している。町の担当者に消防団の班長さんがいて協力体制の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様が人生の先輩である事、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけをしながらケアを行うよう努めている。又、接遇等の勉強会を事業所内でも行い、言葉使いや声掛けの仕方等の向上を図っている。	呼びかけは、なれ慣れしき無いように、さん付けにして距離感を大切にしている。利用者の誇りやこれまでの仕事に敬意をはらい尊厳を傷つけた対応にならないように職員全員で確認して、人格の尊重とプライバシーに配慮する取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご利用者様の想いを受け止め、出来る限り気持ちに添った対応が出来るよう、日々耳を傾けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の希望やペース、その日の状態等を把握した上で、ご本人様の希望に添ったサービスの提供を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容が必要な場合は、ご家族様に連絡をした上で、馴染みのお店を利用して頂いている。又、更衣の際にはご利用者様本人に好きな服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状態を考慮し、声掛けを行い、可能な限り茶碗拭きや野菜の皮むき等を行って頂いている。歩いて作業を行うのが難しいご利用者様には、座ってテーブルを拭いて頂いたり、出来る事を行って頂き、ご自分の役割や出来る事への自信につながるよう支援している。	テーブル拭きなどできる仕事は喜んで参加してもらい、栗おこわやおにぎりなど楽しみながら作っていただいている。利用者と職員の全員が一緒に食事のできる対面式のテーブルで和やかに食事を楽しむことができるような雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や病状等に合わせて、水分や食事内容量の変更などを行っている。又、チェックシートに記録し1日の摂取量を把握し、必要時は主治医やご家族に相談や報告をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯磨きができる方には行って頂き、難しい方には一部介助や声掛けを行い、出来る部分はご自分で出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄能力に合わせた支援を行っている。困難な方には難しい部分のみ介助や声掛けを行い出来る事が継続できるよう支援している。	入居後にリハビリパンツから布パンツに切り替えることができ、利用者一人ひとりに合せた配慮をしている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツやパットなど利用者に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が減少しないよう配慮し、飲みたくない方や、量が一度に摂取できないご利用者様には、小分けに提供している。又、便通に良い食事の提供や、排便の間隔を把握し、必要に応じてかかりつけ医にも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務体制に遅番勤務を設けることで幅広い時間帯での入浴支援を行っている。又、ご利用者様の希望に添って入浴の回数も決めている。	利用者の希望の時間に入浴できる対応をして入浴剤やゆず湯を楽しんでもらっている。大きい家族風呂もあり、訪問された家族と一緒に入浴をする事もできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活習慣に合わせた声掛けを行い、休んで頂いている。又、安眠できるように、不安事に対する心のケアにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時のかかりつけ医からのお話やお薬の内容等を受診記録ノートに記載し職員間で共有している。又、副作用等についても確認しておき、ご家族やかかりつけ医に相談や報告を行い、早期対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	献立を立てたり、日常のお手伝いをして頂いた時には、感謝の言葉を伝えている。出来る事から行って頂き、役割や生きがいにつながるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分や体調を考慮した上で日常的な買い物や散歩、希望者には外出支援を行っている。苑外活動はご利用者様の希望を考慮し計画を立てている。	柳津名物のアワまんじゅうの買い物しながら桜の花見や、伊佐須美神社のヤマメ祭り熱塩加納のひめさゆり祭りにも全員参加で出かけている。日常の買い物同行や好天時の散歩の他、懐引きなどの地域の行事の見学も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はご家族様よりお預かりし施設の金庫で管理している。個人的な衣類等は、ご利用者様と一緒に買いに行き預り金から支払っている。購入を記録し月に一度ご家族様に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでもご家族様等に電話ができるよう声掛けしている。又、ご自分でお話しがうまく伝えられないご利用者様には職員が電話でお話ししながら、ご家族様とお話しが出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、飾りなど季節を感じられるよう工夫している。又、適切な室温等を心掛け、ご利用者様が不快にならないよう配慮している。壁には外出した際や行事の写真を掲示し皆様に楽しんで頂いている。	地域行事に参加した時の様子や手作り作品の掲示を広く明るい空間に見やすく飾り付けて落ち着いた雰囲気になるよう工夫している。畳の場所にはこたつがあり、利用者が居心地良く過ごせる場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはコタツ、ホールにはソファ、食堂にはカウンター席を設けて自由にどこでも過ごして頂けるようにしている。居室が好きなご利用者様には、1人で過ごす時間を大切にしているが、引きこもってしまわないよう声をかけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	ご本人様、ご家族様と相談し、自宅で使用していたものやご家族様等の写真を置いたり、希望を伺いながら居心地が良く生活できるよう努めている。	なじみのぬいぐるみや家族写真などで居心地良い居室の雰囲気になるように配慮している。居室は畳とフローアが半分づつの作りとなっていて利用者が自由に使い分けをして個性的で安らぎのある居場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルやソファの位置など、ご利用者様が自立した生活が出来るよう工夫している。建物内はバリアフリーになっており、安全な環境を提供している。		